

Yamakado News Letter



西浅井中3年生 最後の保全作業

11月11日、地元の西浅井中3年生20名が山門水源の森に来訪しました。今回は四季の森で林床整備を、また沢道のヒノキ林で獣害テープの撤去をしてもらいました。林床整備は玉切りして現場に散在したままの倒木や枝を一ヶ所にまとめて整理する作業、獣害テープの撤去はヒノキに巻かれた樹皮剥ぎ防止用テープが経年劣化しており、それらを剥がして撤去する作業です。1時間を超える作業時間でしたが、皆な集中力が切れることなく、コツコツと作業をしてくれました。お陰で予想以上の範囲の撤去が完了し、きれいになりました。

西浅井中学校は永原小と塩津小の2つの小学校の生徒が集まっています。両小学校共に学校行事やPTA行事で、山門水源の森での学習や作業を行っており、彼らは小学校時代から何度となくこの森を訪れていました。そんな山門水源の森での活動も、学校行事としてはこれが最後となりました。

後日、3年生全員の感想文が届きましたが、その中で「これが最後と思うと少し寂しい」と書いた生徒が何人かいました。また地元「西浅井の事をいなかであまり良くないと思っていた。しかし…西浅井は（テレビの画面からの情報とは違い）本当の色が見られる町で、住んでいる事をほこりにしようと思った」と書いている生徒もいました。

西浅井中が保全作業に参加するようになったのは、2011年に陸上部



獣害テープの撤去作業



林床整備



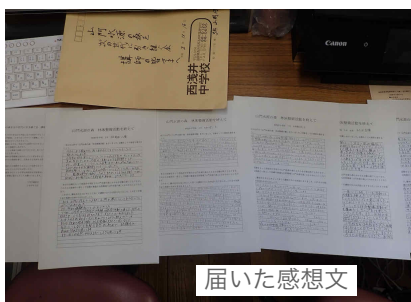
が部活の一環として参加したのが始まりです。翌2012年からは学校事業として、1年生は自然学習、2年生はササユリ播種作業、3年生は保全作業を行い、この森に来るのが恒例となりました。

子供達の学習レベルや来訪する季節に合わせてのガイドは、そう簡単なことではありません。また、彼らに作業をしてもらうためには、事前の準備も必要です。しかし、山門水源の森を次の世代に引き継いでいくためには、次の世代にも興味や関心



2014年 現3年生の小4時
エビフライ探しに夢中

を持ってもらうことが重要です。この森での調査・研究、また保全の活動だけでなく、こうした教育・普及的な活動も大事な活動です。



届いた感想文



2年生のササユリ播種作業 11/6



1年生 自然学習 11/16

今月の保全作業

11月3日の保全作業の日は、6日の西浅井中2年生のササユリ播種作業を控え、ササユリ防獣ネットの撤収と生育地の刈り払いを行いました。また6日には山門老人会の方々に、楽舎進入路から北側作業道にかけての刈り払いなどをして頂きました。

2020年現在、ササユリ保護のため設置したネットは10カ所、総延長は569mになります。これらは積雪による破損を防ぐため、毎年蒞果を回収した後に全て解体し、撤収します。ネット内で食害を免れたコナラやクリなどの木本類は、そのままにすると年々成長して日影を作ります。そこで、ササユリの生育環境を維持するために、ネット撤収後は保護区を全面的に刈り払います。更に、刈り払った草木は、来春のササユリが発芽しやすいように撤去をします。これらの作業は大変な労力を要します。1日では終わらないので、その後もコツコツ作業を続けています。

また、今年は湿原内のササ刈りも行うことにしました。かつてはトキソウやクサレダマがよく生育していた場所が、2000年代の湿原再生作業以降、ネットでの保護もありササが繁茂して湿地植物の生育環境が悪化しているためです。

その他、21日は会員9名で糞粒調査を行いました。



ネット撤収作業11/3



山門老人会保全作業11/6 Photo 橋本



糞粒調査11/21



湿原際の刈り払い11/21



コースの刈り払った草撤去11/26



刈り払ったササの撤去11/29



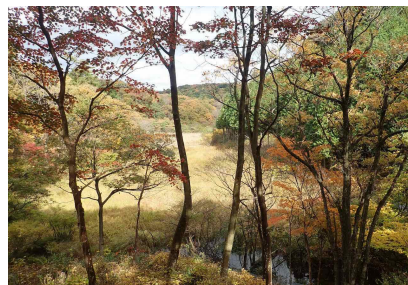
ササを刈り払う前 11/22



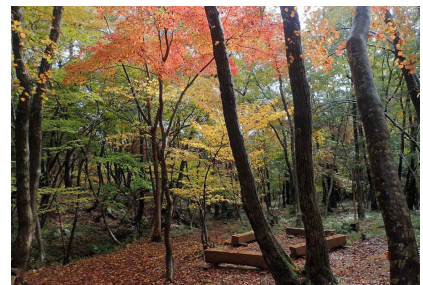
刈り払った後 10/29

今年の紅葉

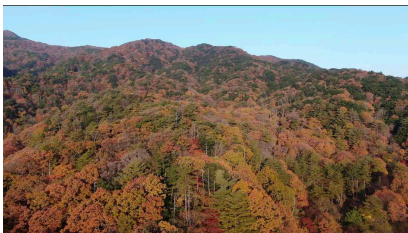
今年の紅葉シーズンはコロナ禍の影響もあって団体ツアーも少なく、ガイドをする機会も殆どありませんでした。また、この時期は何かと忙しく、じっくりと散策する時間が取れず、気付いたら上層部のブナ紅葉は終わっていました。そんなことで撮影した枚数も少なめですが、移動中に撮影した風景などをいくつか掲載します。



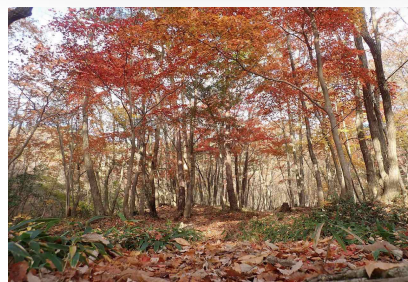
南部湿原の南斜面から 11/9



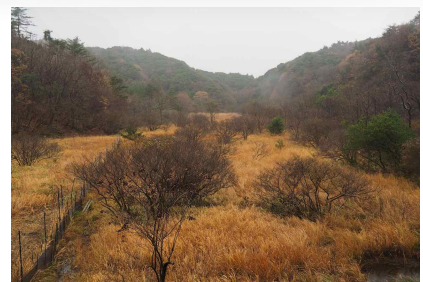
雨天の四季の森 11/10



ドローン空撮 11/16



四季の森散策コース 11/19



北部湿原草紅葉 11/30